

スペイン産業遺産の保護に関する法制

— 1978年憲法における観光政策に対する
地方分権化の視点からの考察 —

野口 健 格

I はじめに

II スペインの産業遺産に関する制度の概要

- (1) スペイン的背景
 - 1. 観光産業の重要性
 - 2. 憲法に基づく観光分野における自治州への自治の保障
- (2) スペイン歴史遺産法 (Ley del Patrimonio Histórico Español)
 - 1. 産業遺産の位置づけ
 - 2. 産業遺産の保存
- (3) 産業遺産に関する制度
 - 1. 産業文化自然考古学協会 (INCUNA)
 - 2. スペイン国際産業遺産保存委員会 (TICCIH-España)
 - 3. 産業遺産に関する国家計画
(PLAN NACIONAL DE PATRIMONIO INDUSTRIAL)

III スペインにおける産業遺産

- (1) 世界遺産
 - 1. アルマデン水銀鉱山
 - 2. ビスカヤ橋
 - 3. その他
 - ①ラス・メドゥラス
 - ②セゴビア旧市街とローマ水道
 - ③バレンシアのラ・ロンハ・デ・ラ・セダ
- (2) スペイン国際産業遺産保存委員会 (TICCIH-España) が選出した
産業遺産百選

IV 検証—まとめにかえて

(付録①) 産業遺産に関する国家計画 (PLAN NACIONAL DE PATRIMONIO

- INDUSTRIAL) の行動の初期目録 (2002) およびその実現 (2002-2010)
- (付録②) スペイン国際産業遺産保存委員会 (TICCIH-España) によって選ばれた産業財産の小目録 (2011)
- (付録③) 産業文化自然考古学協会 (INCUNA) による代表的なスペインの鉱山の風景の目録 (2012)

I はじめに

国際産業遺産保存委員会 (The International Conference for the Conservation of the Industrial Heritage (以下、TICCIH)) は、2003年に採択したニジニータギル憲章において“産業遺産”を「歴史的・技術的・社会的・建築学的、あるいは科学的価値のある産業文化の遺物からなる」⁽¹⁾と定義しているが、1960年代以来、産業考古学⁽²⁾への関心は、まずイギリスと他のヨーロッパ地域で高まりを見せ、後に他の大陸の国々へと波及した。スペインでは、20世紀に入りとりわけ1980年代以降、産業考古学の分野が、事実上すべての自律的コミュニティにおける工業的・歴史的遺産の保護の一派として現れ、次第に発展してきた。近年のスペイン史の形成過程を通じて、産業活動は徐々に文化遺産の一部とみなされ得る一連の要素を持つようになってきているようである。具体的には、生産と輸送のプロセスを構成する要素は、技術装置と同様に、都市の進化を促し、空間と景観のアイデンティティを形成し、そして、産業化が進んでいる重要な環境の変化を定義し、これらに関する証拠の保存と研究は、人類史上重要な時期を理解し文書化するために不可欠なものであると認識されつつある。現代において工業化の証拠や現代史におけるランドマーク的存在が、産業遺産であることを妨げないよう、産業考古学が国家的文化財保護に繋がるためにも、歴史的・文化的・民族的遺産に関するエッセンスが、それらに関する規制や法律に含有されている。つまり、何が存在しているかを知

り、文化的関心のある商品であると宣言するための選択基準を都市計画のカタログに組み込む目的で、工業化と公共事業のすべての遺産目録を作成することが、国または地方自治体の業務として必要とされるのはやむを得ないと考えられているのである。この遺産のカタログ化、研究、普及の作業は、工場、産業、企業、起業家、橋梁、港湾機器、灯台、油圧工事、運河、歴史に関連する多数の展示会、鉄道駅等はもちろんのこと、産業財産の重要なもの、もしくは重要ではないものの中で、人々の仕事についての文化とその記憶に関する多くの研究が含まれている。スペイン歴史的遺産法 (Ley 16/1985, de 25 de junio, del Patrimonio Histórico Español)⁽³⁾ は、文化的関心のある場所や風景を宣言し、それに基づいて開発を行い、ときには、地域によって独自に特定の法律を用いて、鉱山、工場、採石場等で、博物館や通訳センター、公園等を設置し開発することを許可している。また、様々な要素と品目に関する産業と文化の風景の文脈で、研究と保護を行うと同時に、工業用通路、駅、港湾の一部である埠頭や機械は、現在も一般的な使用を前提にしている⁽⁴⁾。このように、現在のスペインにおいて、産業考古学遺産の保全と研究には、一見すると好都合な環境が用意されていると言えるのかもしれない。しかしながら、スペインでは、財政的観点からも観光に比重を置いた国家政策を展開する必要があるにも関わらず、かえって財政基盤が十分ではない中央政府や地方自治体にとってこれら産業遺産の保存や活用自体が重荷になってしまっている事例も多々あり⁽⁵⁾、課題も多い。本稿では、スペインの産業遺産に関する制度的な側面と実体的な側面を概説しつつ、考察を加えることにより、世界遺産の登録推進を積極的に進めるわが国の観光政策を考える際の一助となることを目標としている。

II スペインの産業遺産に関する制度の概要

(1) スペイン的背景

1. 観光産業の重要性

これまで、スペインにおける観光開発のための組織づくりは、国王アルフォンソ13世による20世紀初頭の外国人観光旅行の振興を図ることを目的とした国家政策に始まり、1905年に全国観光委員会（Comisión Nacional de Turismo）が創設され、1911年には王立観光庁（Comisaría regia de Turismo）の創設により宿泊施設と主要道路交通網の整備が進められた⁽⁶⁾。続いて、1928年に全国観光委員会（Patronato Nacional del Turismo）⁽⁷⁾が設立され、1931年から1936年の第二共和制期は、更に観光開発に力を入れ、この時代に、観光総局（Dirección General de Turismo）や内務省に属する国家観光課（Servicio Nacional de Turismo）など新たな機関が創設され、部署の再編成が進んだ⁽⁸⁾。フランコ体制下の1951年には情報・観光省（Ministerio de Información y Turismo）が、1954年に各省庁間観光委員会（Comisión Interministerial de Turismo）が、1962年に観光事務次局（Subsecretaría de Turismo）および観光分野に関する調査研究・統計を実施する国立観光調査研究所（Instituto de Estudios Turísticos）が創設され、1963年には、情報・観光省が観光関連企業を認可し、その範囲を限定し、必要があれば何らかの制裁を加えるというガバナンスの任務を負うことになった⁽⁹⁾。

1978年憲法制定以降から現在は、観光行政組織について、2000年4月27日付王令557号（Real Decreto 557/2000）によって国の諸機関の再編成が行われ、観光分野における行政権限を持った基本機関である商業観光庁（Secretaría de Estado de Turismo y Comercio）は、経済省に属する外局として設置された⁽¹⁰⁾。そして、政府の観光政策を担当する観光事務総局（Secretaría General de Turismo）が、その商業観光庁に属している。観光事務総局は、更に2つの下部組織から成り立っており、1つは観光品質・開

発次局 (Subdirección General de Calidad e Innovación Turísticas) で、その主な機能は、観光商品のコンセプト作りと企画、品質の向上、観光関連企業の技術開発、企業間協力等を担当し、もう1つは、観光協力・調整次局 (Subdirección General de Cooperación y Coordinación Turística) で、主に観光に関する関係機関との協力調整作業を担当している⁽¹¹⁾。その他、1990年代には、観光セクター会議、省庁間観光委員会、観光促進評議会および国立観光調査研究所が観光事務総局の管轄下に置かれ、現在では、観光行政は経済省の外局を離れ、産業・観光・商業省 (Ministerio de Industria, Turismo y Comercio) として省レベルに引き上げられた⁽¹²⁾。これは、観光産業が、スペイン経済発展政策の中心に位置づけられる重要な産業の1つであり、国がそのことを十分認識していることを示しており⁽¹³⁾、国際観光収入が常に上位にランキングされることから明らかである。

2. 憲法に基づく観光分野における自治州への自治の保障

スペイン観光政策の特徴を決定づけたのは1978年憲法における国から自治州への権限移譲に伴う観光政策の地方分権化である。1960年代に始まった外国人による観光ブームは、スペインの政治的変化の中で決定的な影響力を持ち⁽¹⁴⁾、外国人観光客は、外貨と民主主義的な情報をスペインにもたらした。1939年以降続いてきたフランコ体制が1975年に独裁者の死により終わりを迎え、1978年憲法が国民投票で承認され、広範な自治権の保障を地域間対立の妥協の産物として生み出し、それ以来、中央集権的自治州国家といういびつな国家運営をすることになったのである。新憲法は、フランコ政権の下の中央集権的な国家モデルと地方分権的な自治州国家モデルとを民主主義という概念を糊代に両立させ、現在に至っている。現行憲法第148条第1項は、州の専管的権限を限定列挙した条文で、その第18号において、「自治州域内における観光プロモーションおよび観光整備については自治州の権限である。」と規定し、自治州が観光の分野での権限を付与されたことを明確に述べており、観光政策は自治州によって担当され、州の観光プロモーションと観光整備は当該自治州が担当することとな

った⁽¹⁵⁾。ただし、国は、直接観光に関して権限を行使することがなくなつたとはいえ、海外でのスペイン観光プロモーション、国際関係、観光総合計画などの国の専管事項（憲法第149条第1項）を根拠として自治州に関与し、自治州観光政策にも影響を及ぼすことができることに注意が必要である⁽¹⁶⁾。スペイン政府の観光目標は、①世界におけるスペインの地位を維持すること、②リーダーシップを維持すること、③持続可能な観光政策をとること、④商品の多様化を図り、市場のニーズを把握しそれに合った商品を提供すること、⑤諸外国のターゲットを広げること、⑥これらを踏まえて世界23カ国に置かれている海外観光局を通して、州政府は海外におけるプロモーションを行うこととされている⁽¹⁷⁾。そして、これらの目標を達成するために次の6つの戦略に力を入れており、その中身は、①海外におけるプロモーション、②パラドール（Paradores: スペイン国営ホテル）を利用したプロモーション、③情報の分析、④観光商品に関する活動、⑤観光インフラの改善資金、⑥46の世界遺産を活用した誘客施策である⁽¹⁸⁾。このように、スペインでは、国家戦略として世界遺産を積極的に活用する誘客施策がとられスペインにおける最大の国内問題である雇用の創出に一役買っている⁽¹⁹⁾。例えば、国の権限である事務の1つに経済政策があるが、その中で「観光は経済政策の一貫」と位置付けているために、それに関する観光政策は中央政府が担当するとされており、自治州の中には、現実的に海外での観光プロモーションをするような財力のないところもあるため、国が総括しているとみることもできる⁽²⁰⁾。国は、自治州政府と連携・調整する役割も担っており、現在、観光政策を行う行政機関は、国、自治州および地方団体の3段階で構成されている⁽²¹⁾。

1978年憲法による権限移譲は、混合委員会（Comité Paritario）によって承認された一連の王令によって行われ、国から移譲された観光に関する権限を自治州自らが行使するために必要な人的および財政的手段について規定されている⁽²²⁾。権限移譲によって自治州が域内の観光振興を行えるようになるということは、各自治州は自らの責任において域内の観光政策に

関する事務（条例制定、権利、義務等観光に関する全ての事務）を行う義務があることを意味し、全ての自治州は、自治州が制定する自治憲章の中に、観光に関する条項を明文化し、観光に関する様々な部門、宿泊施設、衛生、価格政策、ホテルの分類・格付け、旅行代理店、見本市、祭典、補助金、職業訓練、プロモーション活動等に関する規則を集めた観光についての一般的な枠組みとなる各自治州内においてのみ適用される法律（観光整備法（La Ley de Desarrollo Turístico））を制定していったのである⁽²³⁾。制定過程において当初懸念された、自治州間の法内容の乖離が出てくる可能性に関しては、各自治州が国の示した指標のもとに法整備を行ったため、17の自治州がほぼ同条件の観光整備法を完成させるに至った⁽²⁴⁾。ここまで見てきたように、スペインの観光政策は、主として外国人観光客の消費を促し、如何にして収入や雇用に繋げていくかに重点が置かれ、本稿で扱っている産業遺産という領域については優先順位が高くはなく、保存等の面で懸念があることも考えられる。

（2）スペイン歴史遺産法（Ley del Patrimonio Histórico Español）

1985年に文化的価値の高い遺跡、建築物等について、その保護を目的とした「スペインの歴史的遺産に関する法律（Ley 16/1985, de 25 de Junio, del Patrimonio Histórico Español）」（以下、「歴史遺産法」）が制定され、この法律によってスペイン各地で大きな価値を有する数多くの歴史的遺産が幅広く保護されている。これら文化資産の保護に関する権限そのものは自治州に移譲されているので、各自治州においては、この法律を補完し、それぞれの州の状況に合わせた州独自の法令を導入して、歴史的遺産の保護に当たっている。その中で、国家の行政機関は、その他の公的機関との協力を促進するために必要な措置を採択し、必要とされる多くの情報を収集して提供し（スペイン歴史遺産法第2条第2項）、また、スペインの歴史遺産に関連する行動や情報プログラムの伝達や交流は、遺産委員会を通じて行われるとされている（スペイン歴史遺産法第3条第1項）⁽²⁵⁾。このように憲

法条文による権限移譲によって地域ごとにより主体的な遺産の保護を可能とし、歴史遺産法により具体的な保護の範囲が示されたことで、それぞれの自治体において実質的な政策が行われるようになるのである。

(3) 産業遺産に関する制度

1. 産業文化自然考古学協会 (INCUNA)⁽²⁶⁾

産業文化自然考古学協会 (industria cultura naturaleza Asociación de Arqueología Industrial、以下、INCUNA) は、2004年に創設された TICCIH (TICCIH-España) のスペインでの行動と提案に参加し、スペイン政府によって公布された現行の法制度によってその存在を認められている。また、INCUNA は、鉱山に関連し、産業考古学と文化遺産と自然遺産の研究のための団体として1999年に設立され、2011年9月以降、スペイン政府の決定により公益事業として宣言された組織である。研究者、技術者、専門家、学生、産業遺産の分野に関連する労働者や市民によってスペイン北部の都市アストゥリアスで形成された。今日では、世界中の異なる国の機関とも連携しながら活動している。INCUNA は、その目的において、人々と地域との相互関係と歴史研究、保存等の利害を調整し、その活動の範囲は地域の枠組みを超え、多くの国でその活動が認められている。その一連の活動は、景観と地域の研究プログラムを適用・促進する非営利団体と一緒に保護、研究を行い、産業遺産の振興に興味を持った個人や団体と協力し、それらと関連するあらゆる種類の大学、企業、行政機関および関連機関と協力して、産業、文化、および自然遺産の研究と普及のために従事している。近年、工業建築や芸術、産業、貿易、機械、文化等の観光の強化という側面が、主に遺産保護という主目的を地元の開発計画に取り込み、仕事と場所のアイデンティティを記憶することが、開発力の源泉となってきた。その主な目的は次の通りである。

- ・産業の歴史的遺産の保護と普及、産業考古学、博物館、これらの分野の研究と普及に関する活動を促進するための保護センターを設置するこ

と。

- ・自然遺産の研究に加え、文化・産業観光、産業、文化、地域の社会経済的、文化的発展計画の推進に関連する活動を促進すること。
- ・掲示板、本、雑誌、マルチメディアサポート、その他の種類の視聴覚メディアと印刷物の目的を達成するため、産業遺産保護の推進をすること。
- ・地域産業、地域の遺産の保護の目的と同じ目的をもって組織運営を促進し、世界の企業、教育機関、大学、協定、政府機関と協力すること。
- ・ワークショップ、建築、芸術、技術の記憶、経済社会史の知識に貢献する活動など、あらゆる種類のイベントを含む有形または無形の工業遺産の研究とそれらを取り巻く状況を改善するためのセミナーを開催すること。
- ・国内外の自然環境との関連で、産業文化遺産の価値を決定するためプロジェクトを推進し、支援すること。
- ・特に、産業遺産の保管、保護に多大な人的資源を必要とする国や地域では、国際規模での開発協力計画やプロジェクトを実践すること。

INCUNA が行うレポートと調査は、産業遺産に関する技術レポートの発行に関心のある公的機関、民間団体、個人、団体、団体を対象としている。申請者は詳細（氏名、郵便住所、E メールアドレス、連絡先電話番号、申請者のNIF（納税者番号）またはCIF（納税番号証）など）を示しINCUNA のE メールアドレスに報告書を提出する必要がある、彼らは報告書の主題になる。INCUNA が必要と判断した場合、補足的な情報が必要となるため、報告書の受領が完了すると、同機関は、報告書を発行するための情報、手段、および適切な専門家がいるかどうかを申請者に通知する。また、INCUNA は、報告書の完成が実現可能であると考えない場合には、不可能性の理由と可能な代替案（他の事業体またはそれを実行する可能性のある者を示す）を申請者に通知する。そして、INCUNA が報告書の受注を受理した場合、その経験や専門性により、要求された報告書をよりよく作

成して連絡を取ることができる人またはグループを選択するために、彼らはその実行を委任する。報告書の完成予定時間と準備のための予算は、草案作成担当の専門家によって設定され、申請者に電子メール、ファックス、または通常のメールで通知される。報告書の予算と予想される実行期間を受け取ったら、申請者は INCUNA に条件の受諾を通知するために10日間の期間を設け、申請者による条件の受諾が受理されると、INCUNA はその具体的な手続に進む。準備された報告書は、以前に受理された予算で予見された金額を受け取る前に提出する申請者への承認と紹介のため、INCUNA に事前に届けられる。報告書の著者は、目的のためにその内容について責任を負い、結果的にその中で表現された情報や意見については責任を負わない。彼らは、すでに申請者と同じ著者の仲介者としての役割を果たしているのである。加えて INCUNA は、様々なコミッションとワーキンググループに次のような活動を委託している。それは、「美術と産業」、「アーカイブとドキュメンタリーの遺産」、「遺産空間の計画と開発」、「産業建築」、「産業観光と技術観光」、「鉱業遺産」、「産業風景」、「映画遺産と考古学」、「グラフィックアートと装飾美術の遺産」、「マスタープランとマネジメントプラン」である。

2. スペイン国際産業遺産保存委員会 (TICCIH-España)

国際産業遺産保存委員会 (TICCIH) は、1978年にスウェーデンで創設され、5大陸40カ国以上で実施され、保存、保全、場所、研究、歴史、文書、考古学、産業遺産の再評価の分野における国際協力を促進することを目的としており、これらのカテゴリーでの教育を発展させることも提案されている⁽²⁷⁾。TICCIH は、ユネスコ、ICOMOS、ICCRUM、欧州評議会などの他の機関との連携を維持し、他の機関との協力関係を強化しており、国際的規模の産業遺産に関して、それらの資産を人類の遺産として宣言し、産業遺産の保全と復興に関する報告をするために、ICOMOS とユネスコのコンサルタントに対し協力者として活動している⁽²⁸⁾。

スペインにおける TICCIH の活動に関して、例えば、聖母ピラール・

デ・モトリル砂糖工場の保護のための TICCIH-España の宣言において、産業遺産の防衛と保護に専念する同団体は、旧砂糖工場の管理棟の解体を大きく拒絶した⁽²⁹⁾。この建物の重要性は、以下の理由により正当化される⁽³⁰⁾。

1. ベガ・デ・モトリルの塩分を含んだ既存のウィットブルゴスに1855年に建てられ、ラリオスファミリーによって発売された砂糖システムの貴重な歴史的証拠である。
2. 工業化前段階から工業段階への移行を記録する、砂糖の製造に導入された技術的变化の参考資料である。
3. アンダルシアの東海岸で起こった工業化のプロセスに関連する社会的葛藤を象徴的に特定できることに関連する例である。
4. 南半球の砂糖産業の完全で複雑な構造を維持することは不可欠な要素である。

TICCIH は、スペインとモトリルの市の需要と、新しい文化遺産法の下、所属するアンダルシア自治州の迅速な保護と、この遺産の保全や複合体として工場全体を保護する必要性を文化省に提案している⁽³¹⁾。当該産業遺産の特徴が、アンダルシアの産業遺産の重要性であり、集合的な記憶の一部として明示的に収集されているため、当該宣言が産業利益を得ることを目的として求められているのである⁽³²⁾。持続可能な社会とは、将来のプロジェクト（この場合は工業的プロジェクト）における継承された遺産を、効率的な基準を考慮した新しい都市計画と組み合わせて、その遺産を構造的な道具としてその環境に適合できる方法を追求している⁽³³⁾。TICCIH-España からは、このような優れた産業記念碑の保護を保証するプロジェクトを設計するためのサポートとアドバイスを提供している。

3. 産業遺産に関する国家計画 (PLAN NACIONAL DE PATRIMONIO INDUSTRIAL)

2001年から2002年の間に専門家と異なる自治体の参加により完成され、実施されたスペインにおける産業遺産の国家計画 (Plan Nacional de

Patrimonio Industrial en España) の指針は、スペインが工業化の結果として保存された豊かな歴史的遺産の国家としての保存と保護の必要性を前提としている⁽³⁴⁾。問題は、まだ十分に評価されていない非常に特殊な遺産は、多くの場合、破壊の明らかなリスクを有し、最新の歴史的価値に関する評価の欠如のため消滅する恐れがあることである⁽³⁵⁾。当該計画は、将来の保護、保全および回復を規定する拠点を明確にする目的で生まれ、計画文書は、特定の生産プロセスに対応する各社会の経済活動によって生み出された産業搾取の要素と、特定の社会経済システム内の機械化によって特徴づけられる特定の技術システムとしての要素を有している「産業遺産」を意味付けている⁽³⁶⁾。これら産業遺産の不動産資産については、以下の3種類の産業財に区別されている⁽³⁷⁾。

- ・その性質または残りの構成要素の消滅によって分離された要素、歴史的・建築的・技術的価値などの要素によって分離された要素は、それらが例示する産業活動の十分な証拠であるということ。
- ・すべての材料と機能部品とそれ自身をつなぐ一連の流れが保存されている工業用の組立は、一定の産業活動によって構成された一貫した完全なサンプルであるということ。
- ・1つまたは複数の産業活動の生産プロセスのすべての不可欠な構成要素が、その活動に起因する景観の変容を含めて、目に見える形で保存されている産業景観であるということ。

Ⅲ スペインにおける産業遺産

(1) 世界遺産⁽³⁸⁾

世界遺産リストに登録されるためには、「世界遺産条約履行のための作業指針」で示されている下記の登録基準のいずれか1つ以上に合致するとともに、真実性（オーセンティシティ）や完全性（インテグリティ）の条件を満たし、締約国の国内法によって、適切な保護管理体制がとられている

ことが必要である。世界遺産の登録基準は以下の通りである。

- (i) 人間の創造的才能を表す傑作である。
- (ii) 建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものである。
- (iii) 現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在（少なくとも希有な存在）である。
- (iv) 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である。
- (v) あるひとつの文化（または複数の文化）を特徴づけるような伝統的居住形態若しくは陸上・海上の土地利用形態を代表する顕著な見本である。又は、人類と環境とのふれあいを代表する顕著な見本である（特に不可逆的な変化によりその存続が危ぶまれているもの）
- (vi) 顕著な普遍的価値を有する出来事（行事）、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある（この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい）。
- (vii) 最上級の自然現象、又は、類まれな自然美・美的価値を有する地域を包含する。
- (viii) 生命進化の記録や、地形形成における重要な進行中の地質学的過程、あるいは重要な地形学的又は自然地理学的特徴といった、地球の歴史の主要な段階を代表する顕著な見本である。
- (ix) 陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や動植物群集の進化、発展において、重要な進行中の生態学的過程又は生物学的過程を代表する顕著な見本である。
- (x) 学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶滅のおそれのある種の生息地など、生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地を包含する。

※なお、世界遺産の登録基準は、2005年2月1日まで文化遺産と自然遺産についてそれぞれ定められていたが、同年2月2日から上記のとおり文化遺産と自然遺産が統合された新しい登録基準に変更された。文化遺産、自然遺産、複合遺産の区分については、上記基準（i）～（vi）で登録された物件は文化遺産、（vii）～（x）で登録された物件は自然遺産、文化遺産と自然遺産の両方の基準で登録されたものは複合遺産とする。

1. アルマデン水銀鉱山

アルマデン水銀鉱山⁽³⁹⁾の正式名称は、「アルマデンとイドリア：水銀鉱山の遺跡（Heritage of Mercury. Almadén and Idrija）」であり、水銀鉱山とそれらに関連する旧市街や産業遺産群を対象とした遺産であるとして、2012年に世界遺産として登録された。本稿では直接言及してはいないが、ハプスブルク家出身のスペイン国王フェリペⅡ世の時代には、アルマデンと共にスロベニアのイドリア水銀鉱山もスペインの領土であったため、水銀鉱山関連遺産としてセットで登録されるに至った⁽⁴⁰⁾のである。この世界遺産は2箇所の水銀産地とその関連施設群を対象とし、アルマデン5件、イドリア7件の計12件の個別資産によって構成されている。アルマデンでは古代から水銀の抽出が行われ、イドリアは、1490年に水銀が発見され、フェリペⅡ世によるアメリカ大陸の植民地化の際に発見された水銀産地の開発に際して水銀が必要になった⁽⁴¹⁾。銀⁽⁴²⁾の精錬⁽⁴³⁾には、水銀が活用され、水銀の需要は増大⁽⁴⁴⁾し、以来、アルマデンとイドリアは、水銀精錬に特化した技術的・社会的なシステムを構築して発展したのである⁽⁴⁵⁾。銀の精錬に必要な不可欠な水銀生産を掌握したことで、市場での主導権を獲得したこれらの水銀産地は、短期間に新旧大陸間公益の中心となり、近代の水銀精錬における社会構築やライフスタイルを象徴するものとなった様子を今に伝えるものである⁽⁴⁶⁾。アルマデンの構成遺産は、①「アルマデン旧市街」（La ciudad antigua de Almadén）、②「ミナ・デル・カスティリョの建造物群」（Los Edificios de la Mina del Castillo）、③「王立強制労働刑務所」（Real Cárcel de Forzados）、④「サン・ラファエル王立水銀夫病院」

(Real Hospital de los Mineros de San Rafael)、⑤「闘牛場」(Plaza de Toros)である。アルマデンの水銀鉱山では、スペイン帝国が終焉を迎えた後も採掘が行われ、スペイン国有の水銀採掘貿易会社である MAYASA (Miñas de Almadén y Arrayanes, S.A.) が経営していたが、生産規模を縮小しつつ2004年に生産停止することになったが、規模としては当時世界最大であった⁽⁴⁷⁾。ところで、欧州における主たる水銀鉱山はスペインのアルマデンであって、1995年には約1,500トンの水銀を生産し、同時に約4トンを大気に放出して公害源ともなっていたが、水銀の使用量を削減する国の方針により補助金を得て採掘量の削減を図っていた。現在は、毒性の強い水銀の使用は禁止される方向にあり、欧州域内の不要水銀の処分及び貯蔵に関して問題になっており、一度撤回されたが、アルマデンを候補地にすべきという意見もでており、他の水銀鉱山の存在や各国の事情が複雑に絡み合う事態になっている⁽⁴⁸⁾。

登録基準として ICOMOS は、スペインとスロベニアは基準 (ii)、(iv) での登録を勧告し、世界遺産委員会でも同様の結論に達したため、2012年に登録がなされた⁽⁴⁹⁾。当該遺産は、スペインの産業遺産の中でも2カ国にまたがる唯一の世界遺産である。

2. ビスカヤ橋

ビスカヤ橋は、スペインのネルビオン川に架かっている世界最古の運搬橋である。ビスケー湾に面した港湾都市ビルバオの河口付近にあり、ポルトゥガレテ地区とゲチヨ地区を結んでいる。ビルバオはイベリア半島の北端に位置し、バスク自治州ビスカヤ県の県都である。ギュスターヴ・エッフェルの弟子の一人、建築家のアルベルト・パラシオによって設計され、1893年に完成・開通した⁽⁵⁰⁾。この運搬橋という形式は、ビルバオに向かう海上交通の妨げになることなく、また長い傾斜路をもつ巨大な橋を造らずにすむ解決策として考え出されたものであり、現在も稼働中の運搬橋の一つである⁽⁵¹⁾。軽量鉄ケーブルの使用が画期的であり、産業革命期の顕著な建築学上の鉄構造物とみなされた。

この世界遺産は世界遺産登録基準における (i)・(ii) の基準を満たしたと見なされ、2006年に登録がなされた⁽⁵²⁾。

3. その他

以下の遺産は世界遺産として登録されており、分類法によってはスペインにおける産業遺産を形成し得るものの、TICCIH España や INCUNA の産業遺産リストには入っていない。

① ラス・メドゥラス

ラス・メドゥラスは、スペイン北西部のレオン地方とガリシア地方の中間に位置し、ローマ帝国は、紀元後1世紀頃にこの地で水力による金の発掘を始め、約2世紀後に撤退した⁽⁵³⁾。その後、この地はさしたる産業の発展もなかった為、当時の技術による採掘の現場、坑道、残滓などの名残、荒廃した廃坑の奇異形景が手つかずのまま斜面に広がっている。当時の事業の規模と大きさと、技術の高さをうかがい知ることのできる遺産である⁽⁵⁴⁾。

この世界遺産は世界遺産登録基準における (i)・(ii)・(iii)・(iv) の基準を満たしたと見なされ、1997年に登録がなされた⁽⁵⁵⁾。

② セゴビア旧市街とローマ水道

セゴビアは、スペイン北部、カスティーリャ・イ・レオン自治州の南部にあるセゴビア県の県都で、標高1000mに位置する。城壁に囲まれた旧市街には、11～12世紀時代の聖堂、12世紀のカスティーリャ王国の城壁に加えて現在も使用されているローマ時代の水道橋がある。この水道橋は、花崗岩を積み上げたもので、全長728m、119のアーチからなる⁽⁵⁶⁾。

この世界遺産は世界遺産登録基準における (i)・(iii)・(iv) の基準を満たしたと見なされ、1985年に登録がなされた⁽⁵⁷⁾。

③ バレンシアのラ・ロンハ・デ・ラ・セダ

バレンシアの中央部にあるラ・ロンハ・デ・ラ・セダは、1482年から1533年にかけて建てられた建物で、ゴシック後期のフランボワイヤン様式の傑作である。貿易会館（この建物の名称が「ロンハ」）は、15～16世紀に

絹取引で栄えた地中海の商業都市の富と権力の象徴であり、セダとは、スペイン語で絹のことである⁽⁵⁸⁾。

この世界遺産は世界遺産登録基準における (i)・(iv) の基準を満たしたと見なされ、1996年に登録がなされた⁽⁵⁹⁾。

(2) スペイン国際産業遺産保存委員会 (TICCIH-España) が選出した産業遺産百選

産業遺産百選とは、産業遺産に関する国家計画に付随し、スペインの各自治州を通じて TICCIH España が提案しているスペイン国内の産業遺産リストで、研究に関連する基本的な文献の管理や産業考古学や産業化遺産に関する業務を補完するものである。この策定は、巡回型展覧会とともにスペインの工業化に関する文化遺産の価値を可視化するための物であり、これら100点の選択は、遺産自体の経過年数、工業化を定義する様々な要素、建築の種類、産業界と地域との関係、産業景観への愛着、保全の程度、訪問と個別の興味を掻き立てるかどうかがそれらの使用といったことを基準に選ばれている⁽⁶⁰⁾。スペインでは、産業観光や科学技術観光の収益をさらに伸ばして行くために、博物館や通訳センターへの投資を回収するためにも、開発が強行されている状況にある⁽⁶¹⁾。

※なお、(付録②)は産業遺産百選の地域別リストである。

IV 検証—まとめにかえて

以上、スペインの産業遺産について概観してきたが、世界遺産として登録されているものは、定義や制度の問題から古代遺産と近代遺産のどちらも含んでいるが、本来的な意味での産業遺産は、アルマデン水銀鉱山とビスカヤ橋の二つであろう。前者は王立施設であり、後者は現在も使用されている遺産であるため保護の対象となりやすく、その他の産業遺産との単純比較は難しいかもしれない。しかしながら、アルマデン水銀鉱山の世界

遺産登録申請の際は、スペイン以外の他国に存在する産業遺産という内容で申請しており、申請の過程で南米に存在する遺産を切り離す方式を採ったことも特徴的である。このことから、産業遺産をどのようなストーリーの中で定義づけ、保護と保存の意義づけを行うかが重要であることがわかる。また、どの産業遺産が歴史的・文化的に価値があり限りある自治体予算を投じて保護するに値するのかを判断する際にも、産業遺産のリストを策定し、地域の中で重要な位置を占めている産業遺産のストーリーを示すことが重要になってくる。スペインでは、自治体ごとに財政基盤が異なる中で、重工業や軽工業、鉱業、交通、農業、兵科等の分野で産業遺産が指定されているが、全てが観光に結びつけられ収益を上げ、独自に研究をし、利用や保存につなげられているかと言えばそうではない。ヨーロッパレベルでは、イギリス・ドイツを中心とした産業革命の流れをストーリー化した事業が進行中であるが、産業革命期には「ピレネー以南はアフリカ」と揶揄されたスペインが、なぜ近代化の流れに外れ独自のストーリーを紡ぐことになったのか、イギリスやドイツのような国家統一ができず、地域対立と地域間格差を伴った地域の集合体であった（今もそのような側面がある）独自性を読み取ることができるだろう。一方で、近年の観光産業に代表されるように、世界遺産化することによってもたらされる利益を意識した各自治州および中央政府の思惑から、イギリスやドイツの手法を取り入れ活用していく動きが見て取れることもまた事実である。この点では、産業遺産をストーリーとして捉える手法を採用しているわが国にも一定の示唆を与えるものとなるのではないだろうか。現代の生活へとつながる近代化の足跡は、それぞれの国によって異なるだけでなく、当時から国境をこえて人々の営みが行われていたことを今に伝える貴重な財産になっていると言えよう。スペインの手法がわが国の産業遺産政策に影響を与えるか否かは別として、英・独とは異なった視点を提供してくれる素材であることだけは確かな事実であろう。なお、自治州レベルの制度紹介や事例を挙げることは、スペインの産業遺産の保護を論じるうえでも重要であ

るが、本稿では紙面の関係上、別の機会にまわしたい。

(付録①) 国家産業遺産計画の行動の初期目録 (2002) および
その実現 (2002-2010)

A) 国家産業遺産計画の行動の初期目録 (2002)⁽⁶²⁾

アンダルシア (Andalucía)

1. 聖母ピラール・デ・モトリル製糖工場 (グラナダ) Fábrica azucarera Nuestra Señora del Pilar de Motril (Granada).
2. リオティント鉱山 (ウエルバ) Minas de Riotinto (Huelva).
3. マルベージャ高炉 (マラガ) Altos Hornos de Marbella (Málaga).
4. 王立フスカール鉄力工場 (マラガ) Real Fábrica de Hojalata de Júcar (Málaga).
5. セビーージャ砲兵工場 Fábrica de Artillería de Sevilla.

アストウリアス (Asturias)

6. サンタ・バルバラ・デ・ラ・ラバルダナ立坑 (バジェ・デル・トゥロン) Pozo Santa Bárbara de La Rabaldana (Valle del Turón).
7. オビエド瓦斯・電気工場 Fábrica de gas y electricidad de Oviedo.
8. サリメ貯水池 Salto de Grandas de Salime.

カンタブリア (Cantabria)

9. ラ・カバーダ製鉄所 Complejo siderúrgico de La Cavada.
10. レオシン鉱山の風景 (レオシン) Paisaje minero de Reocín (Reocín).
11. ミオーニョのディシード鉱石栈橋 (カストロ・ウルディアレス) Embarcadero de mineral de Dícido en Mioño (Castro Urdiales).

カスティージャ・ラ・マンチャ (Castilla-La Mancha)

12. 王立サン・フアン・リオパール金属工場 (アルバセテ) Real Fábricas de metales de S. Juan. Riópar (Albacete).
13. プエルトジャーノ鉱山地区 (シウダー・レアル) Zona minera de Puertollano (Ciudad Real).
14. 王立ブリウエガ織布工場 Real Fábrica de Paños de Brihuega.
15. アルマデン鉱業遺産群 Consejo minero de Almadén (Ciudad Real).

カスティージャ・イ・レオン (Castilla y León)

16. サベール採掘場群 (レオン) Conjunto de la cuenca minera de Sabero (León).
17. バルサイン機械製作所 (セゴビア) Aserradero mecánico de Valsáin (Segovia).
18. ベハル繊維産業群 Conjunto de industrias textiles de Béjar.
19. カスティージャ運河 (バレンシア - バジャドリッド) Canal de Castilla (Palencia-Valladorid)

カタルーニャ (Cataluña)

20. ミラルダのマンレーサタオル工場 Fábrica Miralda de Manresa.
21. クロ・デル・モロ・エン・カステジャール・デ・ヌーグのアスランセメント工場 (バルセロナ) Fábrica de cementos Asland en Clot del Moro en Castellar de n'Hug (Barcelona).
22. エスパラグエーラのセドー城下町 (バルセロナ) Colonia Sedó de Esparraguera (Barcelona).
23. ジョブレガの産業城下町 (バルセロナ) Colonias industriales del Llobregat (Barcelona).

マドリッド (Comunidad de Madrid)

24. ヌエボ・バスタン工房群 Talleres del conjunto de Nuevo Baztán.
25. パトーネス・イ・トーレラゲーナのイサベル二世の運河施設 Instalaciones del Canal de Isabel II: presa del Pontón de la Oliva de Patones y central eléctrica de Torrelaguna.
26. 王立マドリッド タピストリー工場 Real Fábrica de Tapices de Madrid.
27. アルカラ・デ・エナーレスのラ・エスペランサ小麦粉工場 Fábrica de harinas La Esperanza de Alcalá de Henares.

バレンシア (Comunidad Valenciana)

28. アルコイのエル・モリナル (アリカンテ) El Molinar de Alcoy (Alicante).
29. バレンシアのグラオ旧駅 Antigua estación del Grao de Valencia.
30. アルモイーネス シルク工場 (バレンシア) Fábrica de la seda, Almoines (Valencia).
31. バレンシア タバコ工場 Fábrica de tabacos de Valencia.

エストウレマドゥーラ (Extremadura)

32. プラセンシア製粉工場 Harinera de harinas de Plasencia (Cáceres).
33. アルデア・モレーの鉱山 Minas de Aldea Moret (Cáceres).

34. アルメンドラレホのワイナリー Bodega de Almendralejo (Badajoz).
ガリシア (Galicia)
35. ブエウ・カン・ガス・デ・モラッソの缶詰工場とマッソ捕鯨工場 (ポンテベドラ) Fábrica de conserva y factoría ballenera Massó de Bueu-Can-gas de Morrazo (Pontevedra).
36. タンブレ川水力発電所 (ラ・コルーニャ) Centrales hidroeléctricas del río Tambre (La Coruña).
37. レドデーラのマドリード-ポンテベドラ間を結ぶ鉄道陸橋 (ポンテベドラ) Viaductos “Madrid” y “Pontevedra” del ferrocarril en Redondela (Pontevedra).
38. フェロル海軍基地の海軍造船所 (ラ・コルーニャ) Astilleros navales del Arsenal de Ferrol (La Coruña).
ラ・リオハ (La Rioja)
39. 王立エスカレー布工場 Real Fábrica de Paños de Ezcaray.
ナバーラ (Navarra)
40. エル・トゥルハル搾油所 El Trujal de las Cabañillas.
41. イラティ川発電所 Centrales eléctricas del río Iratí.
バスク (País Vasco)
42. パサイアの造船所 (ドゥラガ・ハイスキベル) Draga Jaizkibel. Pasaia (Guipúzcoa).
43. イルグルツェッタ鉱業保護区 Coto minero de Irugurutzeta (Guipúzcoa).
44. セスタオのビスカヤ高炉・第一高炉 (ビスカヤ) Alto Horno I de Altos Hornos de Vizcaya. Sestao (Vizcaya).
45. アニャーラ製塩所 Salinas de Añara (Álava).
ムルシア (Región de Murcia)
46. ラ・ウニオン・イ・カルタヘナの鉱山風景 Paisaje minero de La Unión y Cartagena.
47. アギラスのオルニージョ鉱石栈橋 Embarcadero de mineral del Hornillo en Águilas.
48. カルタヘナ軍需工場 Arsenal de Cartagena.
その他の自治体
49. 鉄道の街 Poblados ferroviarios.

B) 実現したもの (2002-2010)⁽⁶³⁾**アンダルシア (Andalucía)**

- ・マルベージャ高炉 (マラガ) Altos Hornos de Marbella (Málaga).
- ・王立セビージャ砲兵工場 Real Fábrica de artillería de Sevilla.
- ・アルダレスの王の小道 (マラガ) Caminito del Rey en Ardales (Málaga).
- ・アルメリーアの英国式コンベアー Cable Inglés de Almería.

アラゴン (Araón)

- ・王立ビジャフェリーチエ火薬工場 Real Fábrica de pólvora de Villafeliche.

アストウリアス (Asturias)

- ・サンタ・バルバラ・デ・ラ・ラバルダナ立坑 Pozo Santa Bárbara de Mieres.
- ・サリメ貯水池 Salto de Grandas de Salime.
- ・カステジョンのアルナオ産業遺産群 Conjunto Industrial de Arnao en Castrillón.

カスティージャ・ラ・マンチャ (Castilla-La Mancha)

- ・王立サン・フアン・リオパール金属工場 (アルバセーテ) Real Fábricas de metales de S. Juan. Riópar (Albacete).
- ・アルマデン鉱業遺産群 Conjunto minero de Almadén (Ciudad Real).

カスティージャ・イ・レオン (Castilla y León)

- ・ベハル繊維産業群 (サラマンカ) Conjunto de industrias textiles de Béjar (Salamanca).
- ・カスティージャ運河 (バジャドリード-パレンシア) Canal de Castilla (Valladorid-Palencia).
- ・ゴルドンシージョ小麦粉工場 (レオン) Fábrica de Harina de Gordoncillo (León).

カタルーニャ (Cataluña)

- ・クロ・デル・モロのアスランセメント工場 (バルセロナ) Fábrica de cementos Asland en Clot del Moro (Barcelona).
- ・エスパラグエーラのセドー城下町 (バルセロナ) Colonia Sedó de Esparraguera (Barcelona).

マドリード (Comunidad de Madrid)

- ・パトーネス・イ・トーレラゲーナのイサベル二世の運河 Canal de Isabel II en Patones y Torrelaguna.

バレンシア (Comunidad Valenciana)

- ・アルコイのエル・モリナル (アリカンテ) El Molinar, Alcoy (Alicante).

- ・アルモイーネス シルク工場 (バレンシア) Fábrica de seda Lombard de Almoines (Valencia).

エストウレマドゥーラ (Extremadura)

- ・モンフラグエの鉄道の街 (カセレス) Poblado ferroviario de Monfragüe (Cáceres).

バスク (País Vasco)

- ・パサイアの造船所 (ドゥラガ・ハイスキベル) (キプスコア) Draga Jaizkibel en Pasajes (Guipúzcoa).
- ・セスタオのビスカヤ高炉・第一高炉 (ビスカヤ) Alto Horno I de Altos Hornos de Vizcaya en Sestao (Vizcaya).

ムルシア (Región de Murcia)

- ・ラ・ウニオン・イ・カルタヘナの鉱山風景 Paisaje minero de La Unión y Cartagena.
- ・アギラスのオルニージョ 鉱石栈橋 Embarcadero de mineral del Hornillo. Águilas.
- ・アバランのセグーラ川にかかる橋 Puente sobre el río Segura en Abarán.

(付録②) スペイン国際産業遺産保存委員会によって選ばれた
産業財産の最小目録 (2011)⁽⁶⁴⁾ (スペイン産業遺産百選)

アンダルシア (Andalucía)

- ・アルメリーアの英国式コンベアー (アルメリーア) Cable Inglés (Almería).
- ・プエルト・レアルの造船所 (カディス) Astilleros de Puerto Real (Cádiz).
- ・パニャロージャ工業都市 (コルドバ) Cerco Industrial de Peñarroya (Córdoba).
- ・聖母ピラール・デ・モトゥリル製糖工場 (グラナダ) Fábrica de Azúcar Nuestra Señora de El Pilar. Motril (Granada).
- ・リオティント鉱山 (ウエルバ) Minas de Riotinto (Huelva).
- ・ハンドゥラ貯水池と発電所 (ハエン) Embalse de Jándula y Central Eléctrica (Jaén).
- ・グウアダロルセの繊維産業 (マラガ) Industrias Textiles del Guadalhorce (Málaga).
- ・王立セビージャ砲兵工場 Real Fábrica de Artillería en Sevilla.

アラゴン (Aragón)

- ・サラゴサの GIESA 電気機器工場 Fábrica de material eléctrico GIESA de Zaragoza.
- ・サスタゴのエプロ発電所 (サラゴサ) Electro-metalúrgica del Ebro de Sástago (Zaragoza).
- ・セイラのエル・ラン水力発電所 (ウエスカ) Central hidroeléctrica de El Run. Seira (Huesca).
- ・ラ・サラゴサ麦酒工場 (サラゴサ) Fábrica de cervezas La Zaragozana (Zaragoza).
- ・ビジャヌエバ・デ・ガジェゴのラ・セレス・アラゴネサ製粉工場 (サラゴサ) Harinera La Ceres Aragonesa de Villanueva de Gállego (Zaragoza).
- ・サラゴサのアベルリー工房 Fundición Averly de Zaragoza.
- ・モラータ・デ・ハエンのポルランセメント工場 (サラゴサ) Fábrica de cementos Portland. Morata de Jalón (Zaragoza).
- ・バル・デ・アリーニョ炭鉱 (テルエル) Minas de carbón de Val de Ariño (Teruel).

アストゥリアス (Asturias)

- ・ミエレスのトゥロン渓谷鉱業遺産群 Conjunto minero del Valle de Turón en Mieres.
- ・サリメ貯水池と水力発電所 Salto y central hidroeléctrica de Grandas de Salime.
- ・アルナオ鉱業・産業遺産群 Conjunto minero-industrial de Arnao.
- ・ラ・ベガ・イ・トゥルビア兵器工場 Fábricas de Armas de La Vega y Trubia.
- ・サン・マルティン・デル・レイ・アウレリオのソトン立坑 Pozo Sotón de San Martín del Rey Aurelio.
- ・アビレス、コルベラ、ゴソンの ENSIDESA 産業遺産群 Conjunto industrial de ENSIDESA en Avilés, Corvera y Gozón.
- ・エル・ガイテロ林檎酒工場 (ビジャビシオサ) Fábrica de Sidra El Gaitero. Villaviciosa.
- ・ヒホン北駅 Estación del Norte de Gijón.

バレアレス (Balears)

- ・アルクディア火力発電所 Central Térmica de Alcúdia.
- ・ソーテルのサ・ファブリカ・ノバ Sa Fàbrica Nova de Sóller.

- ・フェラニツ組合 Es Sindicat de Felatanitx

カナリア (Canarias)

- ・テルデのヒナマール水くみ水車 (グラン・カナリア島) La Noria de Jinámar en Telde (Isla de Gran Canaria).
- ・サンタクルス・デ・テネリフェのエル・タンケ El Tanque de Santa Cruz de Tenerife.

カンタブリア (Cantabria)

- ・サン・ロケ・デ・リオミエラ・イ・ソバの王立カバーダ大砲工場用の木材運搬のための建築 Obras para el transporte de maderas con destino a la Real Fábrica de Cañones de la Cavada en San Roque de Riomiera y Soba.
- ・ベスケーラのラ・モンタニェサ小麦粉工場 Fábrica de harinas La Montañesa en Pesquera
- ・トーレラベガのモンタニェサ乳業 La Lechera Montañesa en Torrelavega
- ・ビジャエスクサ、ペナーゴス、エル・アステイジェーロ・イ・メディオ・クデーヨのカバルガ鉱山風景 Paisaje minero de Cabarga en Villaescusa, Penagos, El Astillero y Medio Cudeyo.

カスティージャ・イ・レオン (Castilla y León)

- ・セゴビアの王立貨幣鑄造所 Real Ingenio de la Moneda de Segovia.
- ・カスティージャ運河と協力産業 (パレンシアーバジャドリード) Canal de Castilla y su industria asociada (Palencia-Valladolid).
- ・サベーロのサン・ブラス製鉄所 (レオン) Ferrería de San Blas en Sabero (León).
- ・バルサイン機械製材所 (セゴビア) Aserradero mecánico de Valsaín (Segovia).
- ・ポンフェラーダの製鉄坑夫火力発電所 (レオン) Central Térmica de la Minero Siderúrgica de Ponferrada (León).
- ・カンボ・グランデ鉄道駅とバジャドリード鉄道修理工場 Estación de Ferrocarril Campo Grande y talleres ferroviarios de Valladolid.
- ・ピーノ・デ・オロ・イ・ビジャデペーラのレケッホ橋 (サモラ) Puente de Requejo en Pino de Oro y Villadepera (Zamora).

カスティージャ・ラ・マンチャ (Castilla-La Mancha)

- ・トレド武器工場 Fábrica de Armas de Toledo.
- ・王立リオバル鉄力工場 (アルバセテ) Real Fábrica de Hojalata de Riópar (Albacete).

- ・イモン塩田とニレ並木（グアダラハーラ）Salinas de Imón y La Olmeda (Guadalajara).
- ・ポスエロス・デ・カラトラバの杭打ち鎚（製鉄）（シウダー・レアル）Martinete de los Pozuelos de Calatrava (Ciudad Real).
- ・アルマデン水銀鉱山（シウダー・レアル）Minas de Almadén (Ciudad Real).
- ・テリ瓦礫の山とプエルトジャーノの熱発電所（シウダー・レアル）Escombreras Terri y Central termoelectrica de Puertollano (Ciudad Real).

カタルーニャ (Cataluña)

- ・カステジャール・デ・ヌーグにあるクロ・デル・モロのアスランセメント工場（バルセロナ）Fábrica de cemento de Clot del Moro en Castellar de n'Hug (Barcelona).
- ・カベジャードス風車（バルセロナ）Molino de papel de Capellades (Barcelona).
- ・テラッサにあるアイメリックとアマ・イジョベルの蒸気機関 Vapor Aymerich, Amat i Jover de Terrassa (Barcelona).
- ・ミラルダのカル・マンレーサタオル工場（バルセロナ）Fábrica de Panyos de Cal Miralda en Manresa (Barcelona).
- ・エスパラグエーラのセドー城下町（バルセロナ）Colonia Sedó de Esparraguera (Barcelona).
- ・ピネル・デ・ブレイの農業協同組合（タラゴナ）Sindicato Agrícola de Pinell de Brai (Tarragona).
- ・ベルムン・デル・プリオラの鉛鉱山（タラゴナ）Minas de plomo de Bellmunt del Priorat (Tarragona).
- ・カルドーナ塩山（バルセロナ）Minas de sal de Cardona (Barcelona).
- ・アングレのブレ繊維産業蒸気機関（ジローナ）Máquina de vapor de Industrias Burès en Anglès (Gerona).
- ・コルネージャ・デ・ジョブレガの水利会社の中央汲み上げ機（バルセローナ）Central de bombeo de la Sociedad de Aguas en Cornellà de Llobregat (Barcelona).

マドリード (Comunidad de Madrid)

- ・スエボ・バスタン工房群 Conjunto de Nuevo Baztán.
- ・アランフェスにあるサン・イシドロ王立農場の旧庄搾城と旧醸造所 Antiguo lagar y bodegas de El Real Cortijo de San Isidro en Aranjuez.
- ・マドリードのエル・アギラ麦酒工場 Fábrica de cervezas El Águila en Madrid.

- ・イサベルⅡ世運河の水利施設 Conjunto hidráulico del Canal de Isabel II.
- ・マドリードの王立タペストリー工場 Real Fábrica de Tapices de Madrid.
- ・マドリード地下鉄 Metro de Madrid.

バレンシア (Comunidad Valenciana)

- ・アlicantеのラ・ブリタニカ精製所とラ・カンテラ工場 Refinería La Británica y Factoría La Cantera de Alicante.
- ・ベニッサのサンタ・アナ高架橋 (アlicantе) Viaducto de Santa Ana en Benissa (Alicante).
- ・モレージャのジネール工場 (カステジョン) Fábrica Giner de Morella (Castellón).
- ・バレンシア北駅 Estación del Norte de Valencia.
- ・バレンシアのアバストス中央市場 Mercado Central de Abastos de Valencia.
- ・バイポルタにあるエル・ラジョラル・デ・パウセのホフマン炉 (バレンシア) Horno Hoffmann de El Rajolar de Bauset en Paiporta (Valencia).
- ・アルコイ製粉所 (アlicantе) El Molinar de Alcoy (Alicante).
- ・サグント港の第2高炉 (バレンシア) Alto Horno 2 de Puerto de Sagunto (Valencia).

エストウレマドゥーラ (Extremadura)

- ・アルデア・モレー鉱山 (カセレス) Minas de Aldea Moret (Cáceres).
- ・モンフラグェ駅 (カセレス) Estación de Monfragüe (Cáceres).
- ・フエンテ・デル・アルコのハジョーナ鉱山 Mina de la Jayona en Fuente del Arco (Badajoz).
- ・カストゥエラの製粉業 (バダホス) Harinera de Castuera (Badajoz).

ガリシア (Galicia)

- ・フェロル海軍工廠の造船所 (ラ・コルーニャ) Astilleros en el Arsenal Militar de Ferrol (La Coruña).
- ・ノイアのタンブレ水力発電所 (ラ・コルーニャ) Central hidroeléctrica del Tambre en Noia (La Coruña).
- ・ビラ・デ・クルーセスのフォンターオ鉱山集落 (ポウテベドゥラ) Poblado minero de Fontao en Vila de Cruces (Pontevedra).
- ・モラーソのブエウ・カンガスにある缶詰工場とマツン捕鯨工場 (ポウテベドゥラ) Fábrica de Conserva y factoría ballenera Massó en Bueu-Cangas de Morrazo (Pontevedra).

- ・サルガデーロス製鉄・製陶コンビナート（ルーゴ）Complejo siderúrgico y cerámico de Sargadelos (Lugo).

ラ・リオハ (La Rioja)

- ・ログローニョ市営畜殺所 Matadero Municipal de Logroño.
- ・ハロのラファエル・ロペス・デ・エレディア醸造所 Bodegas R. López de Heredia en Haro.

メリージャ (Melilla)

- ・メリージャの鉱石運搬場 Cargadero de mineral de Melilla.

ナバーラ (Navarra)

- ・オルバイセタ王立軍需製鉄工場 Real Fábrica de Municiones de Hierro de Orbaiceta.
- ・オラサグティアのポルラン・バルデリーバスセメント工場 Fábrica de cementos Portland Valderribas de Olazagutia.
- ・パンプローナのマテサ・イウエル都市産業 Industrial Urbana Matesa Iwer de Pamplona.
- ・トゥデラのピエル・ナセサ Pihier Nacesa de Tudela.

バスク (País Vasco)

- ・アニャーラ製塩所（アラバ）Salinas de Añana (Álava).
- ・ビスカヤ橋（ポルトゥガレーテヘッソ）（ビスカヤ）Puente Vizcaya de Portugalete-Getxo (Vizcaya).
- ・ボイナス・ラ・エンカルターダ・デ・バルマセーダ工場（ビスカヤ）Fábrica de Boinas La Encartada de Balmaseda (Vizcaya).
- ・セスタオのビスカヤ高炉・第一高炉（ビスカヤ）Altos Hornos de Vizcaya en Sestao (Vizcaya).
- ・トゥラパガランのラ・アルボレーダ鉱業遺産群 Conjunto minero de La Arboleda en Trapagaran (Vizcaya).
- ・ビルバオのラ・コンコルディア鉄道駅 Estación de ferrocarril de La Concordia en Bilbao (Vizcaya).
- ・ベアサインのCAF工場（キプスコア）Fábrica CAF de Beasain (Gipúzcoa).
- ・セライン-ムティロア鉱区（キプスコア）Cotos mineros de Zerain-Mutiloa (Gipúzcoa).
- ・サン・セバ스티アンのたばこ工場（キプスコア）Tabacalera Donostia de San Sebastián (Gipúzcoa).

- ・レガスピのパトリシオ・エチェベリーア鉄鋼会社（キプスコア） Empresa de hierros y aceros Patricio Echeverria de Legazpi (Gipúzcoa).

ムルシア（Región de Murcia）

- ・ラ・ウニオン・イ・カルタヘナの鉱山風景 Paisaje Industrial de la Sierra Minera de Cartagena-La Unión.
- ・アギラスの鉱石場とエル・オルニージョ鉱石栈橋 Conjunto silos y embarcadero de mineral de El Hornillo en Águilas.
- ・マサロンのサン・クリストバル・イ・デ・ロス・ペルーレス丘鉱業遺産群 Conjunto minero del cabezo de San Cristóbal y de los Perules en Mazarrón.
- ・カルタヘナ軍需工場 Arsenal de Cartagena.

（付録③） インクーナによるより代表的なスペインの鉱山の風景の目録（2012）⁽⁶⁵⁾

アンダルシア（Andalucía）

- ・リオティント鉱山（ウエルバ） Parque minero de Riotinto (Huelva).
- ・ビジャヌエバ・デル・リオ・イ・ミナスの鉱山組合と歴史的鉱業団地（セビージャ） Minas de La Reunión y complejo histórico-minero de Villaueva del Río y Minas (Sevilla).
- ・リナレスーラ・カロリーナ鉱山（ハエン） Distinto minero de Linares- La Carolina (Jaén).
- ・ベルメス、エスピエル・ペナロージャープエプロヌエボのアルトグアディアト鉱山（コルドバ） Distinto minero de Alto Guadiato en Belmez, Espiel, Peñarroya-pueblonuevo (Córdoba).
- ・シエラ・アルマグレラ鉱山（アルメリーア） Distinto minero de Sierra Almagrera (Almería).

アラゴン（Araón）

- ・オホス・ネグロス鉱山（テルエル） Minas de Ojos Negros (Teruel).
- ・バル・デ・アリーノ鉱山（テルエル） Minas de Val de Ariño (Teruel).

アストゥリアス（Asturias）

- ・アルナオの鉱業産業遺産群 Conjunto minero-industrial de Arnao.
- ・ナロン溪谷鉱床 Cuenca minera del valle del Nalón
- ・カウダル溪谷鉱床 Cuenca minera del valle del Caudal

バレアレス (Balears)

- ・ シウタデージャのソスタル採石場 Canteras de S'Hostal en Ciutadella.

カスティージャ・ラ・マンチャ (Castilla-La Mancha)

- ・ アルマデン鉱山 (シウダー・レアル) Minas de Almadén (Ciudad Real).
- ・ イモン塩田 (グアダラハラ) Salinas de Imón (Guadalajara).
- ・ プエルトジャーノ鉱床 (シウダー・レアル) Cuenca minera de Puertollano (Ciudad Real).

カスティージャ・イ・レオン (Castilla y León)

- ・ エル・ビエルソ鉱床 (レオン) Cuenca minera de El Bierzo (León).
- ・ ルバゴン鉱床 (パレンシア) Cuenca minera del Rubagón (Palencia).

カタルーニャ (Cataluña)

- ・ ベルムン・デル・プリオラ鉱山 (タラゴナ) Minas de Bellmunt del Priorat (Tarragona).
- ・ カルドーナ鉱山 (バルセロナ) Minas de Cardona (Barcelona).
- ・ セルク鉱山 (バルセロナ) Minas de Cercs (Barcelona).

エストウレマドゥーラ (Extremadura)

- ・ ラ・ハジョーナ鉱山 (バダホス) Mina de La Jayona (Badajoz).

ガリシア (Galicia)

- ・ フォンターオ鉱山 (ポンテベドゥラ) Minas de Fontao (Pontevedra).

バスク (País Vasco)

- ・ アニャーナの塩の谷 (アラバ) Valle Salado de Añana (Álava).
- ・ エンカルタシオネス鉱山 (ビスカヤ) Minas de Las Encartaciones (Vizcaya).
- ・ セラインとムティロア鉱区 (キプスコア) Cortos mineros de Zerain y Mutiloa (Guipúzcoa).

ムルシア (Región de Murcia)

- ・ カルタヘナーラ・ウニオン鉱脈 Sierra Minera de Cartagena-La Unión.
- ・ マサロンのサン・クリストバル・イ・デ・ロス・ペルーレス丘鉱業遺産群 Conjunto minero del Cabezo de San Cristóbal y de los Perules en Mazarrón.

注

- (1) 清水慶一「産業遺産」日本ユネスコ協会連盟『世界遺産年報2008』(日経ナショナル・ジオグラフィック社、2008年)、16頁。
- (2) 「産業考古学は、産業革命期の遺産を見直し、文化として守り保存しよ

- う、という広範な市民層の支持を得たものであり、学としての成立当時は産業革命（＝イギリスの最盛期）へのノスタルジーという側面が多く、の支持を得る要因であったことは否定できず、「産業考古学の対象とする時代は1650年から1950年、対象とする分野は農業・鉱業・交通サービスを含む産業（工業）とそれに係わった地域市民・労働者（職人）を含む一般の人々であるというのがもっとも広義の解釈でありいくつかの研究項目によって分類されている。種田明「産業遺産研究・産業考古学の国際的な展開と課題—国際産業遺産保存会議（TICCIH）の沿革と日本—」『桃山学院大学経済経営論集 第39巻第2号』（1997年）、52頁参照。
- (3) スペイン歴史遺産法の条文は、Patrimonio Histórico Español (SEXTA EDICION), THOMSON CIVITAS Editorial Aranzadi (2004) を参照した。
 - (4) 同上。
 - (5) Eva María Martín Azucano, El patrimonio protegido de las personas con discapacidad-Aspectos civiles, LA LEY, (2011), pp. 29-31.
 - (6) 財団法人自治体国際化協会（パリ事務所）「スペインの観光政策」（財）自治体国際化協会 CLAIRREPORT NUMBER322 (Feb 22, 2008) p. 15
http://www.clair.or.jp/j/forum/c_report/pdf/322.pdf（アクセス日時：2018/02/03）。
 - (7) この組織は、国内各地で放置されていた中世から近代初期に建造された古城、宮殿、修道院などの特別な建造物を整備改修して作られた高級ホテルのパラドールネットを全国規模で展開するという使命を担っていた。同上、25頁参照。
 - (8) 同上。
 - (9) 同上。
 - (10) 同上。
 - (11) 同上、25-26頁参照。
 - (12) 同上、26頁参照。
 - (13) 同上。
 - (14) 同上、15頁参照。
 - (15) 同上。
 - (16) 同上。
 - (17) 同上、16頁参照。
 - (18) 同上、16-17頁、および齊藤功高「観光資源としての世界遺産と保護の対象としての世界遺産—EUとスペインの場合を通して—」文教大学生生活科学研究『生活科学研究』第33巻（2011年）、113頁

http://sucra.saitamau.ac.jp/modules/xoonips/download.php/BKK0001131.pdf?file_id=22042 (アクセス日時: 2018/02/03) を参照し、スペインの世界遺産登録件数は2017年時のものに更新している。

- (19) 齊藤・同上、参照。
- (20) 財団法人自治体国際協会 (パリ事務所)・前掲注 (6)、15頁参照。
- (21) 同上、15-16頁参照。
- (22) 同上、16頁参照。
- (23) 同上。
- (24) 同上。
- (25) *Ibíd* (3), p.18.
- (26) 産業文化自然考古学協会のホームページ (<http://incuna.es>) を参照 (アクセス日時: 2018/02/04)。
- (27) TICCIH España のインフォメーションが記載された pdf 版の小冊子
<http://www.ticcih.es/wp-content/uploads/2011/03/TICCIH10marzo.pdf>
(アクセス日時: 2018/02/05) を参照した。
- (28) *Id.*
- (29) <http://ticcih.es/declaracion-de-ticcih-espana-en-apoyo-de-la-conservacion-de-fabrica-azucarera-nuestra-senora-de-la-cabeza-de-motril/> (アクセス日時: 2018/02/05) を参照した。
- (30) *Id.*
- (31) *Id.*
- (32) *Id.*
- (33) *Id.*
- (34) Carlos J. Pardo Abad, *El patrimonio industrial en España — Paisajes, lugares y elementos singulares*, Ediciones akal (2016), pp. 218-219.
- (35) *Id.*
- (36) *Id.*
- (37) <http://www.mecd.gob.es/planes-nacionales/gl/dam/jcr:88a504bd-a083-4bb4-8292-5a2012274a8c/04-maquetado-patrimonio-industrial.pdf> (アクセス日時: 2018/02/05) を参照した。
- (38) 「世界遺産条約履行のための作業指針」で示されている登録基準によると、以下の基準のうちいずれか1つ以上に合致するとともに、真実性や完全性の条件を満たし、締約国の国内法によって適切な保護管理体制がとられている必要がある。その登録基準を以下に列挙した。<http://www.unesco.or.jp/isan/decides/> (アクセス日時: 2018/02/05)

- (39) Rafael Gil Bautista, *Las minas de Almadén en la edad moderna*, Publicaciones de la Universitat D'Alacant (2015), pp.341-345.
- (40) 当初の計画ではスペインの大陸間道路であるカミノ・レアル（王の道）との関連から、ペルーのウアンカベリカの水銀鉱山との連携が模索され、銀の採掘との関連から、メキシコの銀鉱山の町サン・ルイス・ポトシとの連携にも焦点が当てられた（2007年にスペイン、スロベニア、メキシコの3か国の世界遺産の暫定リストに掲載される）。しかし、世界遺産委員会での審議を経てメキシコがリストからはずれることになり、現在の形での登録に至るのである。
- (41) NPO 法人世界遺産アカデミー世界遺産検定事務局『すべてがわかる世界遺産大辞典〈下〉』（マイナビ出版、2016年）、273頁参照。
- (42) 大航海時代によってもたらされる国際化によって貨幣経済が定着し、銀貨を中心とするシステムに移行していくことになった。
- (43) アメリカ大陸での銀の精錬には当初、木炭を大量に消費する溶鉱法が用いられていたが、1550年代に水銀のアマルガムを利用する精錬法（パティオ精錬法：中庭（パティオ）の碎鉱機で細かく砕いて泥状にした銀鉱石に塩を混ぜ、状況に応じて石灰や黄銅鉱なども混ぜる下準備をほどこした塊に水銀・水を攪拌してアマルガムと呼ばれる合金をつくり、それを熱して金や銀を精錬する方法）が導入され始め急速に広まっていった（近藤仁之『ラテンアメリカ銀と近世資本主義』（行路社、2011年）、47-55頁参照）。この精錬法の利点は、加熱の必要が無いため燃料確保のための大規模森林伐採をする必要が無く、禿山の銀鉱山でも精錬が可能なることも普及を後押しした（近藤・同上）。
- (44) スペイン帝国の植民地のうち、ヌエバ・エスパーニャ副王領のサカテカスやグアナフアトなどの銀山と、ペルー副王領のポトシ銀山は銀の産出地として重要なものであった。それに伴って水銀需要も増大したが、それを支えていたのがアルマデン、イドリア、ウアンカベリカ（ペルー）の3鉱山であった。
- (45) 前掲注（41）・世界遺産検定事務局、273頁参照。
- (46) 同上。
- (47) EUの水銀輸出禁止措置によるアルマデン水銀鉱山への影響については、植月猷二「EUの水銀の輸出禁止及び安全貯蔵に関する規則」国立国会図書館調査及び立法考査局『外国の立法248』（2011年）、7頁、11-16頁 <http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/legis/pdf/02480001.pdf>（アクセス日時：2018/02/05）。

- (48) 同上、11-13頁。
- (49) 前掲注 (38) 参照。
- (50) 古田陽久・古田真美『世界遺産ガイドスペイン・ポルトガル編』（シンクタンクせとうち総合研究機構、2011年）、92-93頁を参照した。
- (51) 同上。
- (52) 前掲注 (38) 参照。
- (53) 古田陽久・古田真美『世界遺産ガイド—産業・技術編—』（シンクタンクせとうち総合研究機構、2001年）、40-41頁を参照した。
- (54) 同上。
- (55) 前掲注 (38) 参照。
- (56) 古田・前掲注 (53)、42-43頁参照。
- (57) 前掲注 (38) 参照。
- (58) 古田・前掲注 (53)、44-45頁参照。
- (59) 前掲注 (38) 参照。
- (60) TICCIIH España のホームページ中の産業遺産百選に関する記述を <http://www.100patrimonioindustrial.com>（アクセス日時：2018/02/05）参照した。
- (61) Id.
- (62) Carlos J. Pardo Abad, *El patrimonio industrial en España-Paisajes, lugares y elementos singulares*, Ediciones akal (2016), pp. 253-255.
- (63) Id., pp. 256-257.
- (64) Id., pp. 259-263.
- (65) Id., pp. 265-266.